

非連続の変革 未来創る

大日本印刷 ②

挑戦  
する企業

大日本印刷（DNP）は2023年2〜3月に「ROE（自己資本利益率）10％・PBR（株価純資産倍率）1倍超・営業利益1300億円以上の早期実現」などの長期目標を掲げた。印刷業特有の受注ビジネスによる黒字意識が強かった同社が長期目標を明かすのは初めて。「非連続の変革」の第一歩だ。

成長領域伸長

成長領域の着実な伸長

事業戦略

や構造改革が寄与し、24年度の営業利益は936億円。現中期経営計画の目標を1年前倒しで大幅に上回った。夢が現実に近い。次に進む良いタイミング」（専務取締役の三宅徹）とし、26年度から始まる3カ年の新

新興国を強化

ICカードなどを手がける情報セキュリティ関連事業は、アフリカを中心に政府向けID認証サービスを提供するルビコン（英領ケイマン諸島）を買収した。シナジーを生み、

営業益1300億円超 早期実現

中計以降は「全事業部それぞれが営業利益CAGR（年平均成長率）5％の達成」を目指す。「事業で利益を稼ぎ、持続的に成長する」（同）決意だ。新中計は「皆で議論し、皆で作上げ、皆で実行する」（同）がコンセプト

2026-28年度の新中期経営計画における注力事業領域

DNPの資料を基に作成

スマートコミュニケーション	情報セキュア関連 <input type="button" value="追加"/>
ライフ&ヘルスケア	フォトイメージング関連 <input type="button" value="追加"/>
エレクトロニクス	モビリティ関連
	産業用高機能材関連
	デジタルインターフェース関連
	半導体関連

一層密になる」（同）。その先の目標はDNP両事業は新中計から注力事業領域に加わった。各事業部と交わす活発な議論。三宅は「皆が自分ごととして受け取り、

「自分たちの事業をこうしたい」と話してくれる。すごく楽しい」と笑う。この意識こそがDNP自身が主体的に価値を生み出す「第3の創業」の実現につながる。29年度以降にはメタバース（仮想空間）など新規事業の確立も見据える。